平成二十五年度公益財団法

茨

会議は、まず、理事会と評

成立)が行われ、その後、葉

何れも過半数を超え、会議が

城

評議員会が、五月十三日(月) ハ茨城県消防協会理事会及び

に茨城県総合福祉会館におい

名のところ出席者二十九名で

出事公へ

議員会で審議いた

梨会長から主催者の挨拶、続

阿見町消防長

川村忠男様)

公益財団法人茨城県消防協会役員名簿

(任期:平成25年度~26年度)

会長 葉梨 衛 光 専務理事 遠藤 延男 顧問 大塚

| | | /ESC P | ٠, | 1.7% | |)L : | ZXX | ** | 1 | 14-1 | 7374 | カベエコ | 平成25年 5 月13日 | (建制順) |
|----------|------|--------|--------|-------------|-----|--------------|---------------|----------|-------|----------|--------|--------|----------------------|----------|
| -lade | · / | | whit a | N E≓ | | tak salar me | 1 | ×101 | who | | /=r = | | | |
| 支部 | 3名 | | 副分 | 会長 | | 理事数 | _ | 理 | 事 | | (所 属) | | 備考 | 理事定数 |
| 県 | | 澤 | | 浩 | 行 | 5 | 澤 | 畑 | 浩 | <u>行</u> | (ひたちなた | (市/ | 支部長10年理事 | 4 |
| | | | | | | | 今 | 橋 | 松 | 男 | (日立市) | , | | |
| | 北 | | 畑 | | | | 飛 | 田 | 和 | 義 | (北茨城市 | j) | | |
| | | | | | | | 河 | 野 | | 武 | (東海村) | | | |
| | | | | | | | 小 | 盛 | 久 | 男 | (大子町) | | | |
| 県 ; | | | | | 男 | 4 | 長 | 洲 | 良 | 男 | (茨城町) | | 支部長 | 3 |
| | 央 | 長 | 洲 | 良 | | | 青 | 木 | 英 | 明 | (水戸市) | | | |
| | ^ | K | ÐΠ | 尺 | | | 深 | 谷 | _ | | (笠間市) | | | |
| | | | | | | | 米 | Ш | 不: | _夫 | (大洗町) | | 10年理事 | |
| 鹿 | 行 | 野 | П | | 來 | 2 | 野 | П | | 來 | (神栖市) | | 支部長 | 2 |
| | | | | | | | 山 | 田 | | 治 | (鹿嶋市) | | | |
| | | | | | | | 平 | Ш | 和 | 文 | (河内町) | | 支部長10年理事 | 4 |
| 県南南部 | | | | | | | 猪 | 瀬 | | 彰 | (取手市) | | | |
| | | | | | | | 齌 | 藤 | 芳 | 紀 | (守谷市) | | | |
| | 南部 | 平 | Л | 和 | 文 | 7 | 黒 | 田 | | 功 | (稲敷市) | | 10年理事 | |
| | | | | | | | 武 | 田 | 芳 | 雄 | (美浦村) | | | |
| | | | | | | | 米 | Л | 幸 | 雄 | (阿見町) | | 10年理事 | |
| | | | | | | | 飯 | 島 | 富 | 雄 | (利根町) | | | |
| 111 11br | | 藤 | 11. | 445 | | 2 | 藤 | 井 | 裕 | _ | (かすみがう | ら市) | 支部長 | - 2 |
| 県用る | 県南北部 | | 井 | 裕 | _ | | 倉 | 持 | 政 | 博 | (つくば市 | j) | | |
| | 西 | 金久 | | I → | 夫 | 6 | 金り | 、保 | 恒 | 夫 | (境町) | | 支部長 | 5 |
| 県 | | | | | | | 舘 | 野 | 祐二 | 郎 | (結城市) | | | |
| | | | | | | | 沼 | 尻 | 隆 | 志 | (常総市) | | 10年理事 | |
| | | | (保 | 恒 | | | 相里 | | 和 | 明 | (坂東市) | | | |
| | | | | | | | 皆 | Ш | 光 | 吉 | (桜川市) | | | |
| | | | | | | | 松 | 本 | 明 | 夫 | (五霞町) | | | |
| | | 計 | | | | 26 | 1 | | | | (| | | 20 |
| 消防職 | | | | | 之 | 4 | 鈴 | 木 | 重 | 之 | (水戸市) | | | 4 |
| | | ١ | | _ | | | 髙 | 木 | 信 | | (石岡市) | | | |
| | 職員 | 鈴 | 木 | 重 | | | 福 | 地 | 壽 | 之 | | (市) | | |
| | | | | | | | 羽 | 成 | 祐 | | (土浦市) | 4114/ | | |
| 合計 30 | | | | | | | | | | | | 24 | | |
| | | | | 5歴1 | 0年1 | | I F (1 | 再掲) | 6 4 | Ż, | | 監事 | - (団長2・消防長 | |
| 澤畑 | | | | | | | | | | | | 岡山 | | , |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| 黒田 | 工 | | 敷計 | | | 平川 | | 文(| | | | 根本 | | |
| 755 111 | | / (111 | 1755.1 | • / | | 1 1 711 | 711 | <u> </u> | -11-1 | -1/ | | TAC-PA | 本 (MP24)申任 | 11/11/2/ |

- 理事数は、平成18年度の総会で決定された消防団長から20名、消防長から4名とし、その他団長歴10年以上の者を理事(10年理事)とした。 なお、副会長は理事数の内数である。 副会長・理事については、当協会の「役員等の選任に関する基準について」に基づき各支部及び消防 長会より推薦のあった者とした。 監事は、各支部建制順に持ち回りとし、今期は県北支部、県央支部及び消防長会より推薦のあった者 注1
- 注3

と女性消防団員の部の江森美 千代さんからの寄稿文をご紹 消防団員の部の細谷和彦さん いたします。

「やらなかったこと、

知

防指導方法、私達には正しい

は女性消防団員が五百名突破

る気満ち

楽しい活動をアピールするな 法大会出場などの自分たちの 当普及員の資格取得、全国操 集で確保し、魅力ある応急手

し様々でした。私は茨城県で

な姿とや の前向き ての団員 全国すべ

分かりやすく、子供達への予 課長の講義は、何度聞いても 統合消防隊 長谷川祐子予防

午後の在日米軍司令部地域

挨拶する葉梨会長

者三十一名、評議員数三十七 (理事数三十二名と監事三名 の総数三十五名のところ出席 とを説明した後、 いただくものとが があることから、 あり、同時並行的 のと、個別に審議 だく議案が同じも 会議定足数の確認 同時開催としたこ に進行させる必要 いたご来賓は次の方々です。 いて来賓を代表し県生活環境 挨拶を頂きました。ご臨席頂 兼防災・危機管理局長からご 部防災・危機管理局の丹理事 県立消防学校長 県理事兼防災危機管理局長 県消防安全課長 太高

勝義

様

れぞれ原案どおり承認・可決 事)し、議案が審議され、そ

されました。(理事会と評議

澤光三様)を選出(理事会は 勝彦様/城里町消防団長

定款の規定により会長及び監

様

員会では議事案件が一部相違

議長となり、評議員会の議長 続いて議事は、葉梨会長が 県消防安全課課長補佐 齋藤 大畠 寿哉 亨 均 様 しますので、評議員会議案を

)議案第一号 議案第二号 度普通会計決算 度事業報告 平成 平成二十四年

十二回消防団幹部候補中央特 れました。 別研修が、次の日程で実施さ 日本消防協会主催による第

)男性消防団員の部 平成二十五年二月五日~ **石岡市消防団** 古 (三泊三月)

第十二回消防団幹

部候

補

認識がなかった場合、将来自

央特別研修」に参加して

北茨城市消防団

江森

美千代

)女性消防団員の部 平成二十五年二月十三日~ 団員 団員 中村 団員 小松崎 細谷 信之 睦郎

ら十五日までの三日間、第

の言葉は今までの自分、そし らなかったことを語るな」こ

平成二十五年二月十三日か

十二回消防団幹部候補中央特

別研修に参加させていただき

ました。前向きな行動で正し

て活動を振り返りみて気づき

い情報をこれから伝えたいと

思いました。

た。私は女性消防団員の確

二日目は、東京消防庁本所

情報交換をしました。やはり 保についてのグループに入り

> 活動、行 るような

動の大切

番多かったのは市の広報募

さを学び

ました。

された方々を代表して、男性 今回の研修に本県から参加 北茨城市消防団 部長 江森 美千代 士音 (三) 恒月 で心に残った言葉がありま 防災対策のあり方についてお からは消防団としての役割、 災救急協会講習指導担当部長 話から始まりました。東京防 は、秋本日本消防協会長の講 加して開催されました研修会 甚をいただきました。 その中 全国から女性消防団員が参

体験しました。

さ、水の怖さ、火災の怖さを 都民防災センターで地震の怖

消防協会主催·消防団幹部 候補中央特別研修に石岡市と 北茨城市の消防団員が参加

及び評議員会の議事録署名人

常陸大宮市消防団長

岡山

塩

二十五年度 第十二回消防団幹部候 中央特別研修」 **石岡市消防団** に参加

補

分や自分の子ど

しもたちが沿岸

催され、

全国の団員とも交流

細谷

5月号

行 所

茨城県総合福祉会館内

公益財団法人茨城県消防協会 編集発行人 消防協会長 葉 梨

印刷所

冨士オフセット印刷(株) 1 部

、購読料は年会費に含まれています

の主な行事予定

15円

)協議事項 平成

び評議員の補欠

○議案第三号

役員の改選及

4

発 水戸市千波町1918番地

と感じました。大規模災害時 る工夫で団員の確保は必要だ を行いました。若年層の団員 の対応についてでは、全国の な少子高齢化や過疎化、核家 意見が出されました。 全国的 を検討することなど積極的な め、協力事業所の推進とさら 方策についてという課題で が六班に分かれ、近年の消防 幹部候補中央特別研修が開催 疾化が進むなかでも、

さらな は、公共団体や民間企業も含 化が進む中での効果的な活動 確保対策およびサラリーマン グループ討議および研究発表 図を取り巻く

諸問題について 集まり、盛大に行われました。 されました。全国各地の消防 **弱会に於いて第十二回消防団** 七日までの三日間、日本消防 に企業へのメリットなど施策 買が東京の研修所へ一同に 研修では研修生百三十九名 平成二十五年二月五日から た。このようなことを直接拝 との悔しさなど実体験を交え の当時の活動報告を踏まえな べきかを、それぞれの消防団 うる可能性を認識しつつ、初 ながらお話をいただきまし 員や消防団員が殉職されたこ いことや、たくさんの消防署 鈴木部長をむかえ、講話をい された岩手県大槌町消防団の から訓練し、確認しあうこと 地域コミュニティーと消防 ると感じました。災害時には 常備消防の必要性は重要であ 常備消防が充実しつつも、非 がら討議発表を行いました。 動活動をどのようにしていく を自分たちの地域にも起こり 自然の猛威にはなすすべもな 防災対策整備をおこなっても ただきましたが、どれほどの の重要性を実感いたしました。 消防団が東日本大震災の被害 また、東日本大震災で被災 行政機関との連携を普段

和彦 して られたとしても、住民一人一 とです。消防団としても、ど めに普及活動しなければいけ 整備や施設資機材の充実が図 れほどの情報ネットワークの 見直しを図っていくというこ 報発信のありかたや消防団の た。国においても緊急時の情 聴できたのは貴重な体験でし いう意識をもっていただくた は自分の身は自分でまもると 人の災害に対する認識、最後 危険退避に対する考え方など **農災後明らかになったことで**

ないと実感いたしました。 います。 がなされることで、初めて施 るためです。住民の危機意識 な初動行動がと 遭遇しても一人ひとりが必要 はなくても将来大規模災害に あるからということです。今 部に居住する可能性は十分に 設設備が生かさ

これるのだと思

また、研修

は懇親会も開

としています。これは内陸部 の子どもたちは沿岸部ではな 災害派遣の決定判断など、当 いからと津波に関して十分な 務省では津波防災教育に関し ことができました。また、 時の緊迫した状況をうかがう 災害映像を見ながらの自衛隊 テムサーバーや遠隔地からの の講話では緊急地震速報シス 保護・防災対策室の高橋室長 管理センターを視察し、国民 ては全国区で行う必要がある 研修では総務省消防庁危機 総

研修に参加した石岡市消防団のみなさん

さな子供から大人の方まで伝 の役割」「女性消防団員の確 えていきたいと思いました。 いう時、日頃からの備え、小 教えて下さいました。いざと 知識での防災教育の大切さを その後は、「女性消防団員

う課題について討議に入りま たな消防団活動の展開」とい 保対策」「女性団員による新 躍が力になって えそして行動、 分の思いをチ 小澤浩子副団長の講義で、自 の例を挙げて 員として地域に し、相手を思っ 国の人たちに伝えてきました。 防団員確保アドバイザーの活 最後の研修は赤羽消防団 ャンスに活か 心を大切に考 いることを全 これからは消 認めてもらえ 一人の消防団

ます。 れるよう頑張りたいと思 飛躍と日々の活動の力にな 達のために頑張る目標に向か 地域の人たちが好きでその人

研修に参加した北茨城市消防団 江森部長

た 溢れる言葉の強さ、ネットワ ークの素晴らしさを感じまし

何のために入団したのか、 女性消防団のこれからの

動に励みたいと感じておりま を行うことができ、それぞれ た。これらのことを石岡市消 参加させていただきましてあ じて非常に勉強になりまし の活動状況など意見交換を通 防団に活用できるよう普及活 このような貴重な研修会に

これるようにす

りがとうございました。

消防歴 五十年

元 城里町消防団

団長

元 三和町消防団 石塚 德太郎 (八十一)

元 茨城町消防団

常総市消防団

大(七十)

元

常陸太田市消防団

)石崎 貞夫 (七十) 筑西市在住

元 筑西市消防団 団長

光秋(七十二)

元 水府村消防団 副団長

〇粕田 良一 (六十五) 日立市在住

消防歴 三十九年

吉井 勝藏 (六十五)

いたちなか市在住

消防歴 四十一年九月

元 笠間市 消防監

||三 (七十六)

消防歴 三十六年六月半

元 常総広域 消防監

消防歴 五十三年七月

常陸太田市在住

省から発令されました。 平成二十五年春の叙勲・褒章受章者が四月二十九日に総務

の栄に浴されました。 **秋勲が十五名、藍綬褒章が二名、合計二十九名の皆様が受章** 敷記・勲章は、五月八日(水)、県庁において橋本知事か 本県からは、春の叙勲が十二名、第二十回危険業務従事者

ショーホール)、危険業務従事者叙勲が五月十四日(日比谷 公会堂)、春の褒章が五月十六日(スクワール麹町)におい も執り行われました。 くそれぞれ実施され、同日の午後には、皇居拝謁(「豊明殿」) 国(総務省消防庁)の伝達式は、春の叙勲が五月十日(ニッ

事者叙勲

らの感謝と敬意を表します。 以下、順不同にて受章者の略歴並びに国の伝達式の様子を

元 ひたちなか市 消防司

消防歴 四十二年

〇塚田 憲夫 (六十六) 高萩市在住

勝彦(六十五)

受章者の皆様の永年にわたるご尽力とご功績に対し、心か

宝

双 光

○鈴木 稔(六十二) 龍ケ崎市在住

消防歴 四十二年

※() は発令日現在の年齢

章 叙 勲

元 大洗町 消防監

○友野 幸夫 (六十五) 常総市在住

ひたちなか市在住 消防歴 四十一年九月

榮(六十七)

消防歴 四十二年

消防歴 四十一年六月

常総市在住 消防歴 四十年十一月

宝単光

元 水戸市 消防監

消防歴 三十九年四月

高 正 (二 (子 五)

龍ケ崎市在住 消防歴 四十二年

○大内 憲明 (六十六)

元 鹿島南部

洋紀七十)

消防歴 四十二年

元 大野村消防団 団長

○小薗 文男 (六十六) 水戸市在住

消防歴 三十二年一月半

茨

瑞

宝

小 綬

瑞宝

双光

章

鹿嶋市在住

城

消防歴 四十三年四月 元 水戸市消防団 副団長 分団長 ○菊地 利浩 (六十五) ○久保田 忠明(七十) <ほた たをあき 能ケ崎市在住 元 取手市 消防監 消防歴 四十二年 消防歴 四十一年

)伊勢山 正 (六十五)

宝単

光

消防歴 四十二年三月

稲敷広域 消防監 常次(六十五)

元 日立市 消防司令長

ら総勢百十八名の学生を迎え

必要な知識・技能を習得し、 半年後には、新時代にふさわ

心身の鍛錬と消防職員として

さんにお礼申し上げます。

北茨城市消防団

消防」では消防に関する行いつものことですが、「茨

今後、消防学校において、

三誓に続き、

式辞(齋藤学校

立っていくことを祈念します。 しい消防の担い手として巣

様におかれまし

ては、 職・団員の皆

公私と

お待ちしております。

t

以上の各種事業

おります。消防

前十時から県立消防学校にお

へ校式が、四月十日 (水) 午

がありました。

会長の来賓祝辞(葉梨会長) 安全課長)、続いて県消防協

なり、まず前期の第九十五期 は昨年度に引き続き二期制と

消防歴 四十年

○塚越 武男 (八十四) 常陸太田市在住 消防歴 三十四年五月 消防歴 四十四年五月半 元 下館市消防団 分団長

筑西市在住

消防歴 三十二年 元 つくばみらい市在住 田(六十五)

つくばみらい市消防団

元 高萩日立 消防司令長 元 常総広域 消防司令長

春の叙勲伝達式(ニッショーホール)

倉持団長、舘野団長ご夫妻

元 鹿行広域 消防司令長 元 稲敷広域 消防司令長 元 ひたちなか市 消防監

危険業務従事者叙勲伝達式 (日比谷公会堂)

今年度の消防職員初任教育 長)、知事告辞(大高県消防

入校式に臨む初任科生



平成二十五年 編 集 度の事業がス 後 記

や茨城県消防ポンプ操法競技 主催する消防団百二十年・自 大会中央大会 治体消防六十五 タートして早一 今年度は、日本消防協会が 業が予定されて 五周年記念大会 開催など例年 ヶ月が経過し

> きました石岡市消防団 研修について、ご寄稿いただ

江 細森 谷

積極的2 されているとは存じますが、 発行にあたり、消防団幹部 に事業への参加をお願

全国シェアNo.1の消防車メーカ

常に最新技術を反映して様々な災害 現場で活躍する消防車を制作します。

その他の取扱品目

小型動力消防ポンプ・消防用ホース 救助資機材・潜水機材・消防用被服 防災用品・消防用品・消防資機材



茨城県代理店

有限会社 鈴

〒315-0014 石岡市国府5-2-25 TEL:0299-22-3010 FAX:0299-22-5846

Panasonic

自動火災報知設備 非常電源設備 自家発電設備 CVCF設備 FAX、パソコン

パナソニック株式会社 特機商品代理店

株式会社入江電機工業所

∞310-0031 水戸市大工町2丁目3番23号 TEL.029-224-4614 (代表) FAX.029-224-4613 〒310-0851 水戸市千波町海道付2027番地

千波営業所 TEL.029-241-3636(代表)

土浦営業所

FAX.029-244-0540 〒300-0061 土浦市並木1丁目2番20号 TEL.029-821-8498(代表) FAX.029-822-6575

現っくば市消防団

政博 (七十)

館野 現

<u>藍</u>

綬

つくば市在住 消防歴 四十四年一月

結城市在住

消防歴 五十一年十一月半 結城市消防団 団長 祐二郎 (七十



V75ESからV10Fまで 豊富な機種でお客さまのご要望に お応えいたします。

消防ポンプ自動車 消防用ホース 消火器 消防服装 消防資機材用品一式

茨城県代理店 ・キワ産業株式会社

水戸市東原3-6-24 TEL.029 (224) 3324(代) FAX.029 (224) 3360